



学校だより

# 志高く

正しい判断力とたくましい実践力を  
もった熊谷東中生を育む学校

発行 熊谷市立熊谷東中学校  
電話 048(521)0066  
FAX 048(521)8429  
令和5年5月1日  
前期人権旬間

## 迷惑をかけることについて

校長 清水利浩

熊谷東中学校では、人権旬間が始まります。

校長先生が、10年ほど前に勤めていた学校で、地域の方からお電話でご意見がありました。

「中学校の生徒に、ぜひ周りの人にも配慮するように伝えてください」と。

私が勤めていた学校では、徒歩通学者が多く、登下校時、友達との話に夢中になって、いつの間にか道一杯に広がり、回りの人の存在に気づかず、迷惑をかけてしまうことがよくありました。

まず、「**迷惑をかける**」ということについてお話しします。これは、以前、熊谷の聖天様のご住職からお聞きしたお話です。

「迷惑をかけないようにする」。これは、あたりまえのことです。

そして、私たちは、迷惑をかけないように努めるものです。頑張ります。

でも、「迷惑をかけない」ことは、自分一人でできることです。そして、「迷惑をかけている人がいる」と感じた時、その人のことを許せなくなってしまうものです。

**しかし、私たちはいろいろな場面で、「迷惑をかけて生活をしている」と考えたらどうでしょう？**



令和5年4月26日 雨上がりの大きな虹（熊谷東中）

迷惑をかけているということで、自分と周りの人々との関わりが生まれてきます。

そして、他者との関わりの中で、感謝の気持ちや仲間とともに生きているという優しい心が芽生えるのではないのでしょうか。皆さんはどう思いますか？

日野原重明（ひのはら しげあき）さんのお話をします。日野原さんは、105歳まで生きたお医者さんです。日野原さんが書いた『生きていくあなたへ 105歳 どうしても遺したかった言葉』という本の中にこんな一節があります。



「いじめをやめさせる方法がありますか？」という問いに、日野原さんはこう答えます。

「いじめというのは、人の命を粗末に扱う行為です。相手のことを自分のごとく思う。自分のことのように大切にすること。それができていないのは、子どもの世界だけではありません。大人同士、国と国の間でも起こりうることでしょう。本当の意味で、自分の命を大切に扱うようになれば、人の命を傷つけるような、いじめの連鎖は必ず断ち切れると僕は信じています。

ここで、日野原さんは、2016年に出版した「しかえししないよ」というタイトルの詩画集から一篇の詩を紹介しています。

いのちは目には見えないけれど めいめいが感じとれるもの 君も感じられるはず  
自分がいのちを持っていることを

いのちは自分がもっている時間だよ そう私は十歳になる君に話したね

いのちを大切にすることは いのちを上手に使うこと つまり君のもつ時間を  
君だけでなく誰かのために使うこと

いじめは友だちのもつ時間を奪い いのちを傷つけるもの  
だからいじめは止めようよ

そしてたとえ誰かにいじめられても 殴り返したり 言葉でやり返すことはやめて  
じっとこらえてこう言おうよ

僕は、しかえししないよ

いっしょにグラウンドに出て サッカーしようよ

誰かの時間と 君の時間がいっしょになって 君のいのちが膨らむんだよ

<引用文献>

・日野原重明「生きていくあなたへ 105歳どうしても遺したかった言葉」2017 幻冬舎